

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	1月	22日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	檀原市：入鹿神社 本殿				

所在地	檀原市小綱町335				
所有者(取材 対応者)名	小綱町(小綱町自治会長 ***氏) (個人情報守秘)			連絡先：***	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など：檀原市 文化財保存活用課				
市町村 指定文化財	彫刻	軀			
	建造物	1棟	入鹿神社 本殿 1980(昭和55)年3月17日指定		
文化財指定理由	江戸初期の頃の建物であるが、全体として室町時代の風格を思わせる建造物である。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火災報知器あり。民家が隣接しているため、火災報知器が鳴ると、近隣の人が駆けつけるようになっている。消防署と町民参加の消防訓練が、年2回行われている。	特になし。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	特に獣害はない。	特になし。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	市からの指摘で、本殿屋根の檜皮葺に傷みがあることはわかっている。10年程前に見積りをとって検討したが、修理はできず今に至る。昨今の物価高騰と、職人不足から、以前の見積りからかなり上がっていると予想される。この神社の建つ小綱町の人口は増えているが、新しく住民になった人たちがこの修理の費用負担をどこまで理解してくれるか、費用捻出がどのような形でできるのかが一番の悩みどころだそうである。維持管理については、古くから住んでいる人たちで行っている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

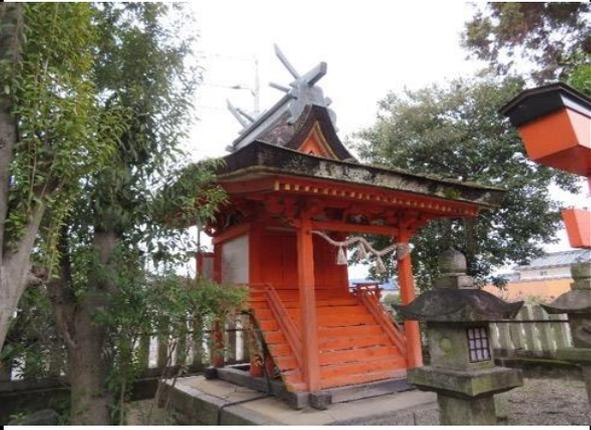
自治会長さんは懸念されていたが、地元の方との交流は活発に行われているように思われる。1月のトンドから始まり、すももの荒神さんの夏祭り、ダンジリのお披露目、秋祭りでは相撲が好きだった入鹿にちなんで、拝殿で子ども相撲が行われたりする。これ以外にも、地元のゴミ拾いや掃除なども頻繁に行われているようである。境内も非常にきれいに管理されており、地元の方々のこの神社に抱く熱意が伝わってくるようである。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	1月	22日	(記入者) 神野一美	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	鈴木
	仲	灰藤	東辻		
取材対象先	檀原市：入鹿神社 本殿				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 入鹿神社 本殿

文化財 (正面写真)	文化財 (三面の墓股)
	 <p>← 正面墓股 鶴</p> <p>本殿左側面 亀</p> <p>本殿右側面 雲?</p>  
<p>拝殿に置かれた入鹿公レプリカ</p> 	<p>気になる部位の写真 (檜皮葺屋根)</p> 
<p>文化財の由緒などを記入</p> <p>創建年代は不明であるが、現在は廃寺の普賢寺の鎮守社であったと伝わる。本殿は、一間社春日造で、身舎は丸柱上に三斗を組み、背面を除く頭貫桁間に墓股を入れている。(檀原市HPより一部抜粋) 屋根は檜皮葺、棟は箱棟に千木、かつお木が取り付けられている。全国で唯一の蘇我入鹿をご神体とする神社であり、入鹿が頭脳明晰であったため、学業成就の神としても有名である。</p>	<p>所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入</p> <p>現在の檀原市周辺は蘇我氏ゆかりの地であり、小綱町は入鹿の母の出身地であるという説もある。明治22年に檀原神宮が造営されるにあたり、神武天皇を祀る檀原神宮の近くに、逆臣である蘇我入鹿を神として祀るのは都合が悪いとして、祭神を素戔鳴尊に、社名も改めるように政府から言われた。しかし、地元の人々はそれを拒み、入鹿神社という名前は残り、今も地元の人々から崇敬される神社となっている。</p>